

総合的な学習の時間 「手話体験」

松田町立松田小学校



単元（題材）目標

- 手話が耳の不自由な人と健常者をつなぐ言語であることを理解し、相手を思いやる気持ちを育てる。
- 耳の不自由な人たちの気持ちを理解し、手話を通じて交流を図る。

（1）実施時期

令和2年1月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 65名、教諭2名、保護者4名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任2名

外部講師：松田町ボランティアサークル「さくらの会」4名、松田町社会福祉協議会：1名

（4）実施内容（全8時間）

- ①手話入門講座（手話通訳有り）
 - ・聞こえないと困ること、聞こえない人とのコミュニケーション方法について考える。
 - ・ジェスチャーで普段の動きを表す。・手話の挨拶を覚える。
- ②手話体験（手話通訳有り）
 - ・指文字で50音を表す。・指文字で自分の名前、教科を覚える。
- ◎手話は、手だけでなく顔を表情や口の動きなどからも読み取る。そのため、表情や口をしっかり動かすことを意識するように指導した。
- ③～⑦ 手話を通して学んだことを追究し、発表する。
- ⑧ビデオ視聴（まとめ）

（5）成果

- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を表現できるようになった。
- 聴覚障がい者に対する理解を深め、今後、自分たちにもできることは何か考えることができた。

〈児童感想〉

- ・耳の不自由な人が、とても笑顔でいることに驚いた。笑顔でいられるのは、みんなと会話ができるからだと思った。手話は、耳が聞こえない人を楽しくしてくれる、嬉しくなるものだと思った。

（6）その他

- 講師、聴覚障がい者の方々を招いて手話体験を行ったことで、より聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。